

跡見学園女子大学  
人文学フォーラム

執筆者紹介 (五十音順・敬称略)

- 石田 信一 *ISHIDA Shinichi* (助教授・西洋文化史)  
神野藤昭夫 *KANNOTO Akio* (教授・日本文学)  
北澤 憲昭 *KITAZAWA Noriaki* (教授・日本近現代美術史)  
齋藤 達哉 *SAITO Tatsuya* (兼任講師・日本語学)  
高橋 善隆 *TAKAHASHI Yoshitaka* (兼任講師・政治学)  
土屋 博映 *TSUCHIYA Hakuei* (教授・日本語学)  
奈倉 哲三 *NAGURA Tetsuzo* (教授・日本思想史)  
西尾 治子 *NISHIO Haruko* (兼任講師・フランス文学)  
林 正子 *HAYASHI Masako* (兼任講師・東洋史)  
山崎 博子 *YAMAZAKI Hiroko* (名誉教授・生物学)  
山田 徹雄 *YAMADA Tetsuo* (教授・西洋経済史)  
横田 恭三 *YOKOTA Kyozo* (助教授・書道史)  
山口 博 *YAMAGUCHI Hiroshi* (聖徳大学教授・日本文学)

編集後記

本誌の体裁・構成は、矢張り、概ね前号に準じている。

表紙の絵の選定・解説については、今回も花蔭記念資料館の御助力を、そして特集論文扉の写真については、今回は早稲田大学メディアアミックスの御助力を得ることができた。

巻頭エッセイは、今年度の人文学科連絡委員長の横田恭三先生にお願いした。

本号では、本学大学院人文学研究科日本文化専攻が同科臨床心理学専攻と共に設立認可され、今年度から発足したことを記念し、その発展を祝して特集論文を組むこととし、関係教員にテーマ設定と執筆を依頼した。その枚数は余り御負担をお掛けしてはと思い、四百字詰二十枚程度でお願いしたが、各位からそれを遙かに上回る枚数の高説が寄せられ、感謝している。次に、投稿論文・研究ノートについては、実に前号の略二倍の投稿件数があり、その内容は国語・文学・教育・歴史・経済・福祉・生物の幅広い各分野に涉り、孰れも力作であつて、大変有難いことと思つている。

尚、今年度の人文学科主催の学術講演会は十二月六日(火)に、聖徳大学教授山口博先生を招請して開催されたが、その御講演の概要を本号に掲載すべく、御無理をお願いして原稿に簡単に纏めて頂いたことをここに申し添えることとする。

最後に、本号発刊にあたり、お世話になった方々に、改めて心から謝意を表する次第である。  
(編者)